

Title	リサーチアシスタント〔RA〕活動報告書 2007年度 : 知のコーディネータへ向けて
Author(s)	
Citation	
Issue Date	2008-03
Type	Research Paper
Text version	publ isher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5140
Rights	
Description	北陸先端科学技術大学院大学 21世紀COE プログラム 「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」

21 世紀 COE プログラム「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」
- 分野横断イノベーション研究教育拠点 -

知のコーディネータへ向けて
リサーチアシスタント〔RA〕 活動報告書

2007年度



平成 20 年 3 月

北陸先端科学技術大学院大学 科学技術開発戦略センター

- 目 次 -

1 . 目的・メンバー -----	p.3-4
2 . 知のコーディネータへの3つの活動 -----	p.5
RA ミーティング -----	p. 6-9
COE 学際セミナー -----	p. 10-15
知のコーディネータ養成講座 -----	p. 16-22
3 . 研究成果報告 -----	p.23-25
4 . RA インタビュー・まとめ -----	p.26-28
RA プロジェクト活動の広報	p. 29

1. 目的・メンバー

目的

21 世紀 COE プログラム「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」の各プロジェクトのオーガナイザーとして選抜された RA（リサーチアシスタント・博士後期課程学生）を対象に、「知のコーディネータ」としての能力を、科学技術開発戦略センターのメンバーとともに習得する。

RA が所属するプロジェクト一覧 () はプロジェクトの代表者

イノベーション研究分野

- 「成熟産業におけるイノベーション」
(寺野 稔教授・マテリアルサイエンス研究科)
- 「研究哲学に裏打ちされた知識創造活動」
(由井 伸彦教授・マテリアルサイエンス研究科)
- 「コーディネーションのための知識表現法」
(堀 秀信教授・マテリアルサイエンス研究科)
- 「研究室のナレッジマネジメント」
(民谷 栄一客員教授・マテリアルサイエンス研究科)

拠点形成活動分野

- 「知識創造モデルとナレッジマップ」
(MA, Tieju 助教・知識科学研究科)
- 「学際コミュニケーション・サイエンスカフェ」
(小林 俊哉准教授・科学技術開発戦略センター)

RA メンバー

成熟産業におけるイノベーション

平松 章男	知識科学研究科
和田 透	マテリアルサイエンス研究科

研究哲学に裏打ちされた知識創造活動

LOCHAROENRAT, Kitsakorn (9月まで)	マテリアルサイエンス研究科
--------------------------------	---------------

コーディネーションのための知識表現法

高橋 誠史	知識科学研究科
井波 暢人	マテリアルサイエンス研究科

研究室のナレッジマネジメント

水元 明法	知識科学研究科
-------	---------

知識創造活動モデルとナレッジマップ

SONG, Haigang (9月まで)	知識科学研究科
YAN, Jie (9月まで)	知識科学研究科
NIE, Kun (10月から)	知識科学研究科

学際コミュニケーション・サイエンスカフェ

SUN, Jiasheng	知識科学研究科
---------------	---------

科学技術開発戦略センター 3名

菊池 智子	研究員
鶴岡 洋幸	拠点形成研究員

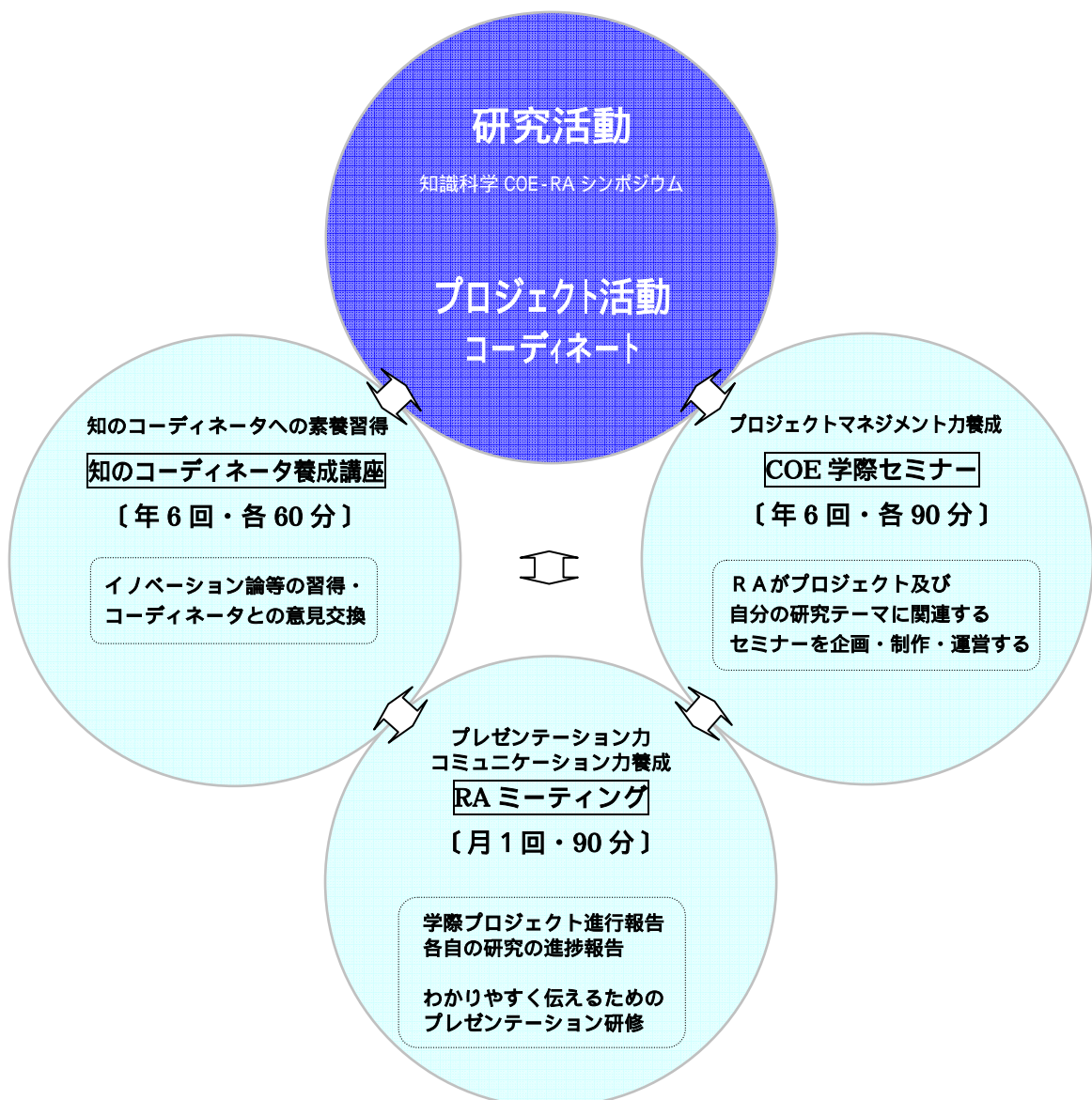
矢部 敏明	研究員 RA プロジェクト全体企画・運営コーディネータ
-------	--------------------------------

2. 知のコーディネータへの3の活動

知のコーディネータとは、「知識科学の理論を身に付け、知識科学のモデル、ツール、システムを駆使して、技術開発、社会開発等のプロジェクトにおいてナレッジワーカーとして活躍できる人材」=イノベーション推進者(社会の発展は技術開発に基づく経済効果までを含めた「イノベーション」によるから)である。

知のコーディネータが習得すべき能力は、イノベーション論等の理論を身に付け、異なる分野とのコミュニケーションができ、学際研究プロジェクト等をマネジメントする行動力である。

「研究活動・プロジェクト活動コーディネート」と3つの活動を通じて、知のコーディネータの能力を習得



2 - . RAミーティング

[実施内容] / 月1回

プロジェクトの進行ならびに研究進捗状況を報告

RA はプロジェクトの進行ならびに個人の研究進捗状況について、別紙(p.22～24)をもとにしてわかりやすく説明する。

養成する主な能力 : コミュニケーション力

プレゼンテーション大会を実施

個人の研究進捗についてはプレゼンテーションを適宜行い、「内容をどれだけ理解できたか」について他の RA メンバーから4段階で評価をもらう。

養成する主な能力 : プレゼンテーション力



月1回の RA ミーティングの様子



グループ別プレゼンテーション大会を実施

《平成19年度スケジュール》

第1回	2007年4月24日(火)	第7回	10月10日(水)
第2回	5月17日(木)	第8回	11月14日(水)
第3回	6月7日(木)	第9回	12月5日(水)
第4回	7月4日(水)	第10回	2008年1月9日(水)
第5回	8月8日(水)	第11回	2月6日(水)
第6回	9月5日(水)		

時間 13:30～15:00 90分

場所 知識科学研究科 棟7・8階セミナールーム

プロジェクト進行報告

(月 日() ~ 月 日())

オーガナイザー氏名：

プロジェクト名：

プロジェクト活動状況

〔活動内容〕

〔結果・課題〕

〔プロジェクト責任者と話し合ったこと〕

次回までのプロジェクトアクションプラン

プロジェクトリーダー

拠点リーダー

研究進捗報告

(月 日() ~ 月 日())

氏 名 :

研究タイトル :

研究活動状況

〔活動内容〕

〔結果・課題〕

〔プロジェクト責任者と話し合ったこと〕

次回までの研究アクションプラン

プロジェクトリーダー

拠点リーダー

年間：研究スケジュール表 2007

氏名		所属		プロジェクト	
研究タイトル					
アブストラクト					

《活動内容》

4月	
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

* 実物は A 3 ・ ヨコのサイズです。

2 - . COE 学際セミナー

主 旨 : RA が所属するプロジェクトの研究に関わるセミナーの企画制作・運営
までを手掛け、自ら研究成果に対して貢献することを通してプロジェ
クトマネジメント力を育てる。

養成する主な能力 : プロジェクトマネジメント力

開催期間 : 平成 19 年 5 月～平成 19 年 11 月〔全 4 回〕

* 本講座は全て公開にて実施

実施内容 : セミナーの企画 (目的・対象・内容)

- ・講師への依頼 (日程調整・講演主旨説明)
- ・講師招聘の学内手続き
- ・ポスター作成
- ・広報・宣伝 (ポスター・e-mail)
- ・講師発表資料・使用機材・当日配布資料の確認
- ・当日会場設営・シナリオイメージ
- ・当日講師対応・サポート要請
- ・司会進行
- ・御礼状送付 など

セミナー実施内容

第 1 回	<p>【イノベーション研究「コーディネーションのための知識表現法」】 日時：2006年5月1日（金）14：00～15：00</p> <p>「オンライン映像コンテンツにおけるメタ情報活用戦略」 講演者：竹村 伸太郎 氏（ソフトアドバンス株式会社 リードプログラマ）</p> <hr/> <p>近年世界規模でのブロードバンドネットワークの普及と相まって、ウェブ社会における映像コンテンツとその配信サービスの存在感が急速に高まりつつある。一方で、これら映像コンテンツに対する検索需要の高まりにより、コンテンツと検索エンジンを繋ぐメタ情報が今まで以上に求められるようになってきた。そこで本講演では、従来の映像コンテンツとメタ情報の関係を抜本的に見直し、メタ情報が加わることで変わるであろうコンテンツデザインの未来を予測した。</p> <hr/> <p style="text-align: center;">会場：知識科学研究科 棟 6 階コラボレーションルーム 3</p>
-------	--

第 2 回	<p>【基盤プロジェクト「学際コミュニケーション・サイエンスカフェ」】 日時：2006年6月5日（火）13：30～15：00</p> <p>「“モバチュウ”で叶える！ユニバーサルコミュニケーション」 - 障害者スポーツ振興を事例として - 講演者：伊藤 数子 氏（NPO 法人 STAND 副代表理事 / 株式会社バステルラボ代表取締役）</p> <hr/> <p>近年、パラリンピックなどで多くの方が目にするようになった障害者スポーツ。その課題の一つに「身体障害のために遠征など長距離移動が困難で、大会に出場できない選手や応援団がたくさんいる」という点がある。そこでケータイとインターネットを活用した誰でも簡単に使えるシステム“モバチュウ”（＝モバイルライブ中継の略）を開発し、遠隔地からの試合観戦や応援メッセージのやりとりなど、いつでも・どこでも“笑顔の見える”中継を可能にしたユニバーサルコミュニケーション活動の取り組みを紹介し、それを題材にイノベーション創出について議論した。</p> <hr/> <p style="text-align: center;">会場：知識科学研究科 2 階 3,4 講義室</p>
-------	---

第 3 回	<p>【基盤プロジェクト「学際コミュニケーション・サイエンスカフェ」】 日時：2006年8月8日（水）14：00～15：00</p> <p>「異分野間コミュニケーション」 - 必要とされる社会的背景と、スキルアップ方法について - 講演者：小林 俊哉（JAIST 科学技術開発戦略センター准教授）</p> <hr/> <p>地球環境、資源エネルギー問題等、従来のタテワリ学問体系では対処しきれない課題が20世紀末以来増加してきている。これに伴い、それぞれの課題に取り組むべき学問分野も理工学から人文・社会科学諸分野へと広がりを見せる中で、これら異分野間の有機的連携が必須となり、そこには「異分野間コミュニケーションスキル」が必要となる。そうした社会的背景を把握するために科学技術政策、科学技術モード論について説明した。 また、本スキルアップ方法を目的に今年2-1期に実施する「学際コミュニケーション論」について紹介した。</p> <hr/> <p style="text-align: right;">会場：知識科学研究科 7階 セミナールーム</p>
-------	---

第 4 回	<p>【イノベーション研究プロジェクト 「モブアルバムを利用した研究室のナレッジマネジメント」】 日時：2007年11月14日（水）14：00～15：00</p> <p>「“モバイル・ブログ・アルバム(モブアルバム)”を活用した 実験系研究室のナレッジマネジメント」 講演者：吉永 崇史（科学技術開発戦略センター研究員 本プロジェクトメンバー）</p> <hr/> <p>マテリアルサイエンス研究科の実験系研究室に本COEから「モブアルバム」というシステムを提案・導入して、大変活用されている。その経緯・成果を報告した。</p> <hr/> <p style="text-align: right;">会場：知識科学研究科 7階 セミナールーム</p>
-------	---

講座風景

第 1 回



竹村 伸太郎 氏



第 2 回



伊藤 数子 氏



第3回



小林 俊哉 准教授



第4回



吉永 崇史 研究員



2 - . 知のコーディネータ養成講座

[実施内容] / イノベーション編・前期 4～6月〔全3回〕
イノベーション編・後期 7～10月〔全3回〕

イノベーション編・前期 概要

主 旨 : 知のコーディネータになる！

“イノベーションの推進者”として、プロジェクトをオーガナイズし、計画どおり進め、新たな成果を出すために必要な知のコーディネート能力を養成する。

開催日時 :

第1回	平成19年4月13日(金)	15:00～16:30
第2回	平成19年5月17日(木)	14:30～15:30
第3回	平成19年6月7日(木)	14:30～15:30

〔全3回〕

会 場 : 第1回 知識科学研究科 棟8階 セミナールーム
第2・3回 知識科学研究科 棟7階 セミナールーム

* 本講座については公開にて実施

講座内容

<p>第 1 回</p>	<p>ケース・メソッドで発見！わがまち活性化のヒント</p> <p>講師</p> <p>西田 みづ恵 氏 VITA+ 代表 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程</p> <p>知のコーディネータのスキルとして、ケース・メソッドの方法論を学んだ。</p>
<p>第 2・3 回</p>	<p>“イノベーションを興す”ってどういうことだろう</p> <p>講師</p> <p>鶴岡 洋幸 氏 JAIST 科学技術開発戦略センター 拠点形成研究員 知識科学研究科 東京 MOT コース修了生</p> <p>2 回にわたり、イノベーションの本質と実践について考えた。</p>

講座風景

第1回



西田 みづ恵 氏



第2回



鶴岡 洋幸 研究員



第3回



鶴岡 洋幸 研究員



イノベーション編・後期 概要

主 旨 : 知のコーディネータになる！

前期と同様に“イノベーションの推進者”として、プロジェクトをオーガナイズし、計画どおり進め、新たな成果を出すために必要な知のコーディネート能力を養成する。

開催日時 :

第1回	平成19年7月4日(水)	13:30~14:30
第2回	平成19年9月5日(水)	14:30~15:30
第3回	平成19年10月10日(水)	14:30~15:30

〔全3回〕

会 場 : 知識科学研究科 棟7階 セミナールーム

* 本講座の第1回はRAを対象、第2・3回は公開にて実施

講座内容

第 1 回	<p>イノベーション研究プロジェクトにおける リサーチアシスタント(RA)の役割</p> <p>講師</p> <p>鶴岡 洋幸 氏 JAIST 科学技術開発戦略センター 拠点形成研究員 知識科学研究科 東京 MOT コース修了生</p> <p>最終年度・本 COE イノベーション研究成果に RA として いかに貢献していくかを議論した。</p>
第 2 回	<p>知のコーディネータ実践事例報告</p> <p>講師</p> <p>千原 かや乃 氏 JAIST 知識科学研究科博士後期課程 DC 本 COE プロジェクト「ソーシャル・イノベーション」メンバー</p> <p>全国で活躍する知のコーディネータの取り組みを紹介し、 共通する資質について考えた。</p>
第 3 回	<p>産学連携にもとづく共同研究プロジェクトの実践報告 - 小売業でのイノベーションを担う人材育成の取り組み -</p> <p>講師</p> <p>吉永 崇史 氏 JAIST 科学技術開発戦略センター 研究員 元 本 COE リサーチアシスタント <16~18 年度></p> <p>JAIST とクスリのアオキ(白山市)連携による人材育成 共同研究の取り組みを報告した。</p>

講座風景

第 1 回



鶴岡 洋幸 研究員

第 2 回



千原 かや乃 氏

第 3 回



吉永崇史 研究員

講座ポスター

イノベーション編・前期(上)・イノベーション編・後期(下)のポスターを制作した。

国立情報科学研究所(NAIST) 情報 COE プログラム 知の科学二つ(科学技術の創造と発展) 共創プロジェクト
 — 知のコーディネータになる! —

平成 19 年度
知のコーディネータ養成講座
 イノベーション編

「イノベーションの推進者」として、プロジェクトをオーガナイズし、計画どおり進め、新たな成果を出すために必要な知のコーディネータ能力を養成していきます。

◇ プログラム全 3 回・レクチャーとディスカッション

◇ ケース・メソッドで発見! わがまち活性化のヒント

第 1 回
 4/13(金)
 15:00-16:30
 (90分)

レクチャー 西田 みづ恵 さん
 VITA+ 代表 豊後高松大学大学院 教育・メディア研究科 修士課程

＜第 1 回のポイント＞
 知のコーディネータのスキルとして、ケース・メソッドの取り組みを学びましょう。

◇ 「イノベーションを興す」ってどういうことだろう

第 2 回
 5/17(木)
 14:30-15:30
 (60分)

レクチャー 騎岡 洋幸 さん
 JAIST 科学技術開発戦略センター 拠点形成研究員
 東京MOIコース修了生

＜第 2 回のポイント＞
 2回にわたり、イノベーションの本質と実践について考えたいと思います。

第 3 回
 6/7(木)
 14:30-15:30
 (60分)

○対象 ○ どなたでも参加できます(無料)。直接会場にお越しください。
 ○会場 ○ 知能科学研究所 7 階 セミナールーム

□お問い合わせ先 COE センター【科学技術開発戦略センター】
 共創プロジェクト・オーガナイザー 加藤彰明(研究員) email: coe@naist.jp

国立情報科学研究所(NAIST) 情報 COE プログラム 知の科学二つ(科学技術の創造と発展) 共創プロジェクト
 「イノベーション」推進者になる! — 知のコーディネータになる! —

平成 19 年度
知のコーディネータ養成講座
 【イノベーション編・後期】

「イノベーションの推進者」として、プロジェクトをオーガナイズし、計画どおり進め、新たな成果を出すために必要な知のコーディネータ能力について考えます。

◇ プログラム全 3 回・レクチャーと意見交換

COE 2A 3 回

第 1 回
 7/4(水)
 13:30-14:30
 (60分)

レクチャー 騎岡 洋幸 さん
 JAIST 科学技術開発戦略センター 拠点形成研究員
 知能科学研究所 東京MOIコース修了生

＜第 1 回のポイント＞
 前年度・本 COE - イノベーション研究成果に RA としていかに貢献できるかを議論します。

◇ 「知のコーディネータ実践事例報告」

第 2 回
 9/5(水)
 14:30-15:30
 (60分)

レクチャー 千原 かや乃 さん
 JAIST 知能科学研究所博士後期課程 DC
 本 COE 共創プロジェクト「ソーシャル・イノベーション」メンバー

本場で実践する知のコーディネータの取り組みと、共通する実践について考えたいと思います。

◇ 「産学連携にもとづく共同研究プロジェクトの実践報告」
 — 本会でのイノベーションを創り出すための実践編 —

第 3 回
 10/10(水)
 14:30-15:30
 (60分)

レクチャー 吉水 崇史 さん
 JAIST 科学技術開発戦略センター 研究員
 元 東 COE リサーチアシスタント (18-19 年度)

JAIST とウツリのアオキ(白山市)連携による人材育成共同研究の取り組みを報告します。

○対象 ○ 第 1 回は COE RA を対象にしています。第 2・3 回はどなたでも参加できます。直接会場にお越しください。(無料)
 ○会場 ○ 知能科学研究所 7 階 セミナールーム 本会プログラムは定員になり次第終了いたします

□お問い合わせ先 COE センター【科学技術開発戦略センター】
 共創プロジェクト・オーガナイザー 加藤彰明(研究員) email: trah@naist.jp

3. 研究成果報告

「知識科学 COE-RA シンポジウム」の開催

「Myイノベーション」をテーマに RA 個々の研究成果発表会を下記のとおり実施した。

開催日時 : 平成 19 年 1 月 22 日(火) 14 : 00 ~ 16 : 00

会 場 : マテリアルサイエンス研究科棟 M4 教室

RA 発表一覧 *発表順

平松 章男 (知識科学研究科) / 和田 透 (マテリアルサイエンス研究科)

大学院の研究テーマ探索手法開発について

- 遷移金属触媒反応研究分野の大学院化学系研究室における事例 -

高橋 誠史 (知識科学研究科)

3D アニメーションを使った知識の伝達ツールの開発

孫 家勝 SUN, Jiasheng (知識科学研究科)

環境の不確実性による知識創造型リーダーシップのあり方

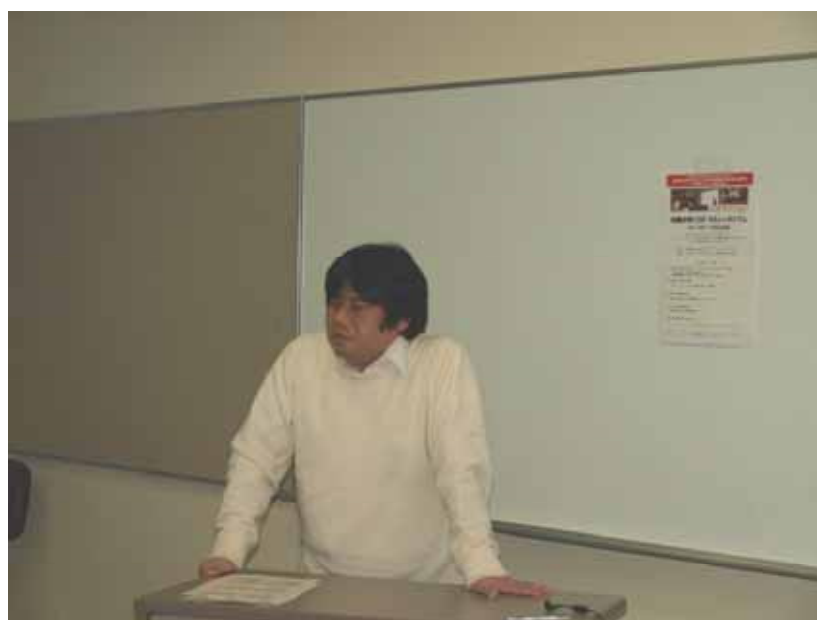
水元 明法 (知識科学研究科)

非営利組織としての実験系研究室

実施風景



研究成果を発表する RA



研究発表全体の講評を述べる事業推進担当者の小林俊哉准教授

北陸先端科学技術大学院大学 21世紀COEプログラム
知識科学に基づく科学技術の創造と実践
—分野横断イノベーション研究教育拠点—



昨年度実施の様相

知識科学COE-RAシンポジウム

平成19年度・RA研究成果発表

本COEで“知のコーディネータ”に向けて活動をしている
RA（リサーチ・アシスタント / 博士後期課程から選抜）の分野横断研究成果の発表を行います。
奮ってご参加をお待ち申し上げます。

日時：2008年1月22日(火) 14:00～16:00
会場：JAIST マテリアルサイエンス研究科棟 M4教室

発表者一覧 *発表順

- | | |
|--|-------------|
| ☆ 平松 章男（知識科学研究科） / 和田 透（マテリアルサイエンス研究科） | ～ 14:30 |
| 大学院生の研究テーマ探索手法開発について
—遷移金属触媒反応研究分野の大学院化学系研究室における事例— | |
| ☆ 高橋 誠史（知識科学研究科） | 14:30～14:50 |
| 3Dアニメーションを使った知識の伝達ツールの開発 | |
| ☆ 孫 家勝（知識科学研究科） | 14:55～15:15 |
| 環境の不確実性による知識創造型リーダーシップのあり方 | |
| ☆ 水元 明法（知識科学研究科） | 15:15～15:35 |
| 非営利組織としての実験系研究室 | |

全体講評 15:35～

☆ 一人（組）あたりの発表15分・質疑応答5分で実施 / 発表タイトル・時間は変更になる場合がございます。

□お問い合わせ先 / COEセンター（科学技術開発戦略センター） 矢部敏明（研究員） e-mail: tyabe@jaist.ac.jp

4. RAインタビュー

【インタビュー日：2008年1月28日(月)・29日(火)】

RA・5名に対してインタビューを行った結果、次の回答を得た。

RAプロジェクトで1年間活動して、自分自身にどんな変化がありましたか。

- 自分の専門分野（マテリアルサイエンス分野）を異分野（知識科学分野）出身者が研究することについて、成果が出にくいのではないかと思っていたが、実際に取り組んでみると成果の有無に関わらず非常に取り組む価値が高いものであると感じた。
- 普段用いることのない研究ツール（3Dプレゼンテーションツールやオンラインコンテンツなど）に触れることで、異分野横断・開拓に興味を持つようになったし、これからも関わっていきたいと思うようになった。また、RAミーティングなどで異分野同士のコミュニケーションの機会を持つことで、研究自体をスムーズに、また、幅も広げることができて、充実した1年間となった。
- 異分野融合というテーマの難しさについて深く考えるようになった。
- 「イノベーション」を意識する中で、様々な文献について調べたり、考えたりするようになった。また、自分の専門領域のイノベーションにおいて良い例を探りながら、それをプロジェクトに活用できないかを考えるようになった。
- 異分野間の議論は、表面的で、深いものになりにくいので、時間をかけて取り組んでいくことが大切であると気づいた。

RAプロジェクトで最も印象に残っている点はどのようなことですか。

- バックグラウンドが異なる人達のプレゼンテーションの違いが印象的だった。特に、知識科学出身者のプレゼンテーションにおいて、以下の2点が印象に残った。
 - 人の目を引き付けるキャッチ力が高い発表が多く、理系研究者に真似できないようなプレゼンがとても参考になった。
 - 逆に科学的に大事なポイント（システムティックな部分）の説明が弱い。

- 自分の専門分野において、異なる視点で見ることができたことが印象に残った。
- 異分野融合という大きな課題に対して、土台となるテーマと方向性が決定したとき。
- プロジェクトの立案・運営・報告までを行うコーディネータという存在の大きさが印象に残った。

JAISTを卒業後、RAプロジェクトの活動の中のどの点が社会で活かされそうですか。

- 様々なバックグラウンドを持つ方々に対して、相手の知識レベルを把握した上でプレゼンテーションする力は知識格差を埋めるという観点において非常に大切だと感じた。
- セミナーの企画・運営能力やプレゼンテーション能力など、異分野と接触する上で必要になると考えられる能力について勉強できた点。また、異分野交流を通じて刺激を得、興味を持てた点。
- マネジメントやコーディネート能力、アウトプットを出す過程における異分野交流の経験。また、バックグラウンドが異なる人たちにプレゼンテーションする大切さ・難しさについて体験できたこと。
- バックグラウンドが異なる人たちにプレゼンテーションする際に、相手がどのように受け取って理解しようとするのかよく考えるという姿勢。

- まとめ -

平成 19 年度 RA プロジェクトでは昨年に引き続き、知のコーディネータに向けて、その基本となる能力を身に付けるために 3 つの活動の場「RA ミーティング」「COE 学際セミナー」「知のコーディネータ養成講座」と、研究成果発表の場「知識科学 COE-RA シンポジウム」をつくり、RA に主体的に活動してもらいました。

RA インタビューから感じることは、昨年度の本プロジェクト以上に、異分野への共感・理解・伝達する能力の大切さ・難しさなどを実感している点です。

こうした目には見えませんが異分野どうしの積極的摩擦の経験は、RA がこれから社会の場に出てから必ず役に立つものと確信しています。

最後になりましたが、RA プロジェクトへのアドバイスやご協力をいただきました事業推進担当者の先生をはじめ皆様方に厚く御礼を申し上げます。

RAプロジェクト活動の広報

RAプロジェクトの活動については、昨年度同様に広報誌「ナレッジ・ビート」(全7号)及び本COEホームページを通じて公開した。



広報誌「ナレッジビート」



科学技術開発戦略センターサイト
<http://www.jaist.ac.jp/coe/indexJ2.htm>
【英語版】<http://www.jaist.ac.jp/coe/>



知識創造場論集 第4巻 第3号
(2008年3月刊)

- 平成19年度 -

リサーチアシスタント(RA)研究論文及び活動報告
~ 知のコーディネータへ向けて ~

報告書制作

北陸先端科学技術大学院大学 科学技術開発戦略センター
RAプロジェクト責任者：矢部敏明(研究員)